

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	849 青少年センター運営経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
		目	04	青少年育成費
基本 施策	37 子どもたちの健やかな成長を促す	細目	442	青少年センター運営経費
		細々目	01	青少年センター運営経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	450400		担当者 氏名
	名称	教育委員会生涯学習課		
		連絡先	22 - 9679 (内線) 3833	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内の児童生徒や未成年者	※対象件数
成果(どうする)	街頭補導活動や相談活動、環境浄化活動を行うことにより青少年の非行防止や青少年犯罪を防止する。	
根拠法令・要綱等	伊賀市青少年センター条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭補導活動(定時補導・随時補導・特別補導) ・相談活動(来所相談・電話相談・訪問) ・環境浄化活動(不良環境点検巡回・環境浄化活動) 	
社会情勢 の変化等	補導する少年の人数は横ばいであるが、徘徊する時間帯や場所が変わってきており、青少年の姿が見えにくくなっている。 このことから決して変わらないとはいえない状況である。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	直営
委託先	
2 配置人員	3人
3 年間運営費	4,912 千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
補導員数		人	目標	101	目標	98
			実績	104	実績	95
補導員の補導回数		回	目標	300	目標	300
			実績	331	実績	307

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
被補導少年数		街頭補導活動や相談活動により年間の被補導者数が減少する。	人	目標	55	目標	55
				実績	75	実績	79
有害図書自動販売機設置箇所数		環境浄化活動の成果として有害図書の自動販売機設置台数が減少する。	台	目標	22	目標	20
				実績	16	実績	12

投入 コスト	H21 決算		H22 決算		H23 当初予算		H24 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	4,554	4,557	4,912	4,912				
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	4,554	4,557	4,912	4,912				
事業投入人件費(B)	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	
フルコスト(A)+(B)	5,274	5,277	5,632	5,632				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	○
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	従前から学校については不審者情報が入れば情報の共有を図っています。平成22年度からは、各地区青少年育成団体とも情報を密にして補導に努めます。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 随時補導の活動の範囲を市街地から郊外に広げ、伊賀市一円を巡回できる体制を整えました。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	児玉 泰清
【方向性】	現状維持
【理由】	公用車を配備したことで、市内一円を定期的に巡回する。また、学校、地域との連携を強化し子どもたちの見守りを推進する。
現時点における課題、その他	街頭補導活動を実施しているが、街頭での子どもたちの姿がみえにくくなっている。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	校長会等をつづぎ青少年センターの活用を周知すると共に、学校や各地区青少年育成団体との情報交換を行う。